

女性のライフスタイルが世紀の社会を変え

講 師 春田 博

1 女性の人生が昔と変わった

①むかし8年、いま40年

昭和15年には、末の子が就学するときの母親の年令は42才で、女性の平均死亡年齢は50才、その間は8年しかなかった。昭和53年には、死亡年齢78才から末子就学時の母年令34才を引くと、その間は44才である。女性が子供に手がかからなくなってから死ぬまでに、40年も生活をエンジョイできる。

②5たい(女性の5つの希望)

昔の「5たい」は「着たい、食べたい、しゃべりたい、甘えたい、産みたい」だった。現在の「5たい」は、「家事を省きたい、外で働きたい、生き甲斐を感じたい、自分名義の財産を持ちたい、抱かれるより抱きたい」である。

③生まれ変わるなら女に

「生まれ変わるなら女に」という女性は、1950年には16%であったが、1993年には65%に達し、東京都では73%となった。

2 21世紀の課題

「男女共同参画社会」「地方分権の時代」(介護保険制度、NPO法、生涯学習社会)が叫ばれている。特にNPO(民間非営利組織活動)が大切である。その担い手は女性である。いま、アメリカの活力の源として3つがあるといわれているが、それは①情報の豊富さ、②移民の受け入れ、③NPO活動である。

女性の雇用機会の増大は国民負担率を下げる効果がある。女性が税金や社会保障費を支払う側に回ることによって、国民の租税や社会保障の負担は軽くなり、それが経済の活性化に繋がるのである。労働の女性化は国民経済にとってマイナスではない。

(記録 藤野 豊)

講師

(財)八王子コミュニティづくり推進委員会顧問
元調布市文化コミュニティ振興財団副理事長

私の青春時代の映画『約束』

話し手 斎藤 耕一
司 会 石井 充

今から30年前の映画『約束』を放映する。 当時の映画館では2本立で映写されていた。 大作と添え物とからなり、この作品は添え物であった。 この映画の特色は「説明」がない。 若き俳優「ショウケン」の魅力を感じてほしい。 若い人にはこの『約束』は感銘が深いようである。

『約束』(放 映)

海外某映画祭で、この作品はグランプリを惜しくも逸した。 この映画の撮り方、演出は、オールロケ、全体の2/3は汽車の中の映像である。 松竹はこの作品で大きな利益をあげた。

私は東映に入り「横山エンタツ」「伴ジュン」に逢い、学生時代より社会勉強に終始した思いがある。

「今井正」に出逢い「今村昌平」に師事した。『望郷』少年時代のメモリー、これで最優秀監督賞受賞。『青春ソーラン節』も何10万人の人達が見ている。ペルーに行きフジモリ大統領に会った。 人質事件の危機管理を取り上げたかったが中断してしまった。現在、ヤクザの奥方を対象として人間のやり直しの可能性を追求する映画を考案中とのこと。

(記録 松本 一夫)

講師

日本映画監督協会

日本シナリオ作家協会

身近な台所の衛生

話し手 松尾 信一郎

司 会 清水 里子

場の緊張を和らげるかのように、「日本では伝染病と食中毒のどちらが多いと思うか？」という会員に対する質問で始まった。

伝染病は医学の進歩により逐次減少してきたが、食中毒は減っていないことで、食中毒の方が多いというのが答え。最近、0-157が話題となったが、発生箇所が学校であったことや、その発生原因、経路がはっきりしないこともあって、社会的な事件となったものであった。

また、「食中毒の発生の場所はどこが多いと思うか？」という質問に対しては、会員から学校、旅館、弁当屋などという答えがでていたが、正解は次の通り。

昨年の食中毒の発生件数は、2,631件で発生場所別にみると、家庭37.3%、飲食店32.3%、旅館10.9%、弁当屋6.5%の順となっていて、家庭での発生が多いが、新聞記事に取り上げられにくいので認識度が低いのではないかというのが話し手の見解であった。

食中毒の原因の95%が細菌によるもので、少量なら問題ないが、大量となると人間の方が負けてしまい発症するもので、件数で一番多いのは、サルモネラ菌、次ぎに腸炎ビブリオ、ぶどう状菌と続く。サルモネラ菌が21分毎、ぶどう状菌は27分毎に1回分裂していくので、時間の経過につれての増殖は猛烈なもので、僅かな時間で10桁の電卓の枠を超えてしまうほどである。(話し手が電卓片手に実際に計算された)

細菌が増殖する条件として、栄養、湿度、温度の3要素があるが、このうち、栄養、湿度の管理は困難であるので、残された温度管理がキーポイントとなる。家庭での食品の貯蔵は、冷蔵庫が一般であるが、その温度管理が問題。これに関する話し手からの「冷蔵庫内の温度を把握しているか？」とか「清掃の周期は？」などの質問には口ごもる人が多かった。

食品には、「要冷蔵」とか「要冷凍」とかの表示はあるが、食品保管に適当な冷蔵庫内の温度としては、チルド：5度C、氷温：0度C、パーシャル：マイナス5度C、冷凍：マイナス15度Cといわれており、その管理のためにも、温度計の使用が望ましく、上・中・下層3本の使用が理想的だが、せめて中層に1本を置きたいものである。

その他、温度管理として、①冷蔵庫を明け放ししないこと、②食品を詰め過ぎないようにすること、などの注意があった。

その後、交流時間に入ったが、テーマが生活に密着したものであったためか、「野菜の保管適温温度は？」、「冷蔵庫の適当清掃周期は？」、「まな板は木製、プラスチック製のどちらが良いか？」など質問も多く、なごやかな雰囲気の中にも真剣な質疑応答が続けられた。

(記録 須藤 英雄)

被害者の復権 ー犯罪被害者をめぐる諸問題ー

話し手 米田 昭

司 会 野口 正久

表記のような、法律にかかわる論題を、解り易く、拝聴できる稀有なチャンスとなった。聴講者としての印象はマスメディアによる加害者と被害者の意図的とも言える取り違えに対する警告を強く感じた。

記録者としての、「聞き違い」を排するため、当日配布のレジュメを中心に、記録者の〈ノート〉をそのまま〈ノート〉として記載した。重大な「聞き違いミス」のない事を祈るが、体調必ずしも好調ならざる話し手が、プロバスクラブとの約束を尊重され、2時間の長講を完遂された誠意に、心からの敬意を捧げる。

1 刑事政策史に見る犯罪被害者の地位

もともと刑事裁判ないし刑罰は、復讐の公営化に始まるものであり、被害者は加害者の処罰の可否に大きな影響力を持っていたと思われる。しかし、時代が進み法制度が整備されるにつれ、法秩序の維持、犯罪の減少が、個々の被害者の意向等をこえた国家の目的となり、犯罪者について、罪を犯した原因を探究し、一般、特別予防の目的を達するため犯罪者処遇のあり方を研究する刑事政策の重要性が認識されるようになった。

〈ノート〉被害者のない犯罪について。(例)単なるスピード違反。等々?

〈ノート〉復讐の公営と私営? 敵討(カタキウチ)公認の側面。日本最後の敵討は明治13年。

2 被害者学(victimology)の誕生

刑事政策学は、第一義的には加害者学であるが、第2次大戦後になると、被害を受けるに至った者の特性、犯罪原因と被害者とのかかわり合いなど、被害者の側面からも犯罪現象をとらえることが、例えば量刑の適正化、被害の減少等に有益であるとする被害者学の必要性が、唱導されるようになった。

この様な傾向は、それ自体は望ましいことであるものの、一部の事件において被害者の責任が必要以上に指摘され、あるいは、犯罪の嫌疑を受けた者の基本的人権が声高に主張される一般の風潮とあいまって、犯罪被害者の人権は守られていないのではないかと疑問を生むようになったと思われる。

〈ノート〉殺人について加害者の42.6%は親族、44.3%は顔見知り、レイプについて23%は顔見知り。

〈ノート〉犯罪の3大要因…痴情・怨恨・物盗り ー昔も今も。

3 犯罪被害者と最近の犯罪の傾向

(1) 犯罪被害者の特性や事件との関連などに全く関係のない無差別(大量)殺人の頻発

(注)オウムサリン殺人事件。松本市、東京地下鉄。

(2) 被害者に関する情報が秘匿されがちな少年による凶悪事犯の頻発

いわゆる痴情、怨恨、物盗りなどの成人による在来型事件で犯行を認めている場合には、事件や犯人についての情報を得、謝罪を受ける機会もあるが、上記の様な場合には、捜査中から裁判段階に至るまで、被害者の心情や立場がかえりみられていないとの不満の生ずることが多く、これに一部捜査機関の配慮不足、弁護活動や報道姿勢の逸脱が加わると、更にこれが増幅される場合がある。

〈ノート〉雑誌「新潮45」による、意図的な少年法61条違反。神戸市の少年による残虐な殺人事件の加害者少年Aについての報道姿勢。

4 犯罪被害者処遇の変遷

最も早くは、1950年代にイギリスで、被害者に対する国家賠償制度について議会で検討のはじまったのが契機となり、その後先進各国において被害者賠償法の制定が相次ぎ、あるいは民間ボランティアを中心とする被害者援護団体が誕生している。

こうした中、1985年の国連犯罪防止会議の決議に。「…被害者は、その尊厳に対して同情と敬意をもって処遇されなければならない…」に始まる一節があり、被害者に対する訴訟手続やその結果等に関する情報の提供、物質的、医療的、精神的、社会的援助、関係機関職員の教育訓練等の必要性が指摘されており、被害者処遇のスタンダードとなるものである。

そこで、この問題に関するわが国の現状を、纏めてみることにした。

〈ノート〉加害者は、その刑期を満了し出所すれば、個人情報、すべて抹消される。(刑期満了者のプライバシー保護) 野放しにつながる被害者は「お礼参り」に自衛。

〈ノート〉新潟における長期の少女監禁事件

【まとめ】

1 犯罪被害者の数…平成10年(9年)

交通関係業過を除く犯罪被害者 死者 1,350(1,296) 負傷者 26,578(25,689)

交通関係業過によるもの 死者 9,211(9,620) 負傷者 990,675(958,925)

2 犯罪被害者の救済制度

(1) 不起訴処分に対する救済制度

検察審査会

平9(平8)の議決内容 起訴相当・不起訴不相当 67(77) 不起訴相当 1,028(1,014)

起訴相当・不起訴不相当事件の検察官の処理総数 84(186) うち起訴22(16)

付審判請求

平9(平8)の処理人員 408(241) うち付審判決定 0(最近5年間で1)

(2) 犯罪被害者にたいする給付金等

一般的なものとしては、

犯罪被害者等給付金支給法(昭55)

故意の犯罪により不慮の死を遂げた者の遺族又は重傷害を受けた者が対象

給付限度額は遺族給付金1,079万円、障害給付金1,273万円

自動車損害賠償法(昭30)

いわゆる自賠責保険により、最高額 死亡・後遺障害3,000万円、障害120万円

3 犯罪被害者に関する最近の動き

警視庁において平成8年2月、「被害者対策要綱」制定。以後同年8月殺人事件の被害者に対し、捜査状況等を連絡する「被害者連絡制度」を実施。9年7月には、都道府県警察で「被害相談窓口の設置の周知徹底と積極的な利用の促進」を広報重点に掲げ、これらの動きとともに、各地に民間の被害者援助団体の発足を見ている。

検察庁においては、告訴人等に対するもののほか、11年4月からは全国的に統一された被害者通知制度が実施された。又、同年8月公布された刑事訴訟法の一部改正により、証人等の尋問にあたり、その住所等が被告人やその関係者等に知られないよう配慮する事が出来ることとされている。更に、同年10月26日法務大臣が法制審議会に諮問した被害者の権利保護に関する立法の骨子として、

①性犯罪の告訴期間の撤廃ないし延長。 ②財産犯の収益の没収、追徴。これを損害回復の一助にする。

③被害者が希望すれば法定で意見陳述を可能にする。等が含まれるほか、証言にあたりモニターを通じ、あるいはカウンセラー付添いの証言を可能にする。また、示談内容を公判調書に記載することにより強制執行を可能にする等々の内容が検討される事となっている。一方警視庁サイドでは、各方面の専門家を集め

た社団法人「被害者支援都民センター」が設置され、12年4月から活動開始が予定されていると報じられているところである。

(記録 石井 充)

中居屋重兵衛と櫻田門外の変 ―井伊直弼暗殺の謎を探る―

話し手 宮崎 浩平

司 会 山下 安雄

昨年度の「生涯学習サロン」での「横浜開港と中居屋重兵衛」の講義に引き続いて、今回は去年とは違った視点で、中居屋重兵衛像にせまりたい。

重兵衛は群馬県嬬恋村にて出生、その後商人を志し、江戸有数の書店の伯母の家に寄宿し、勉学に励むと同時に佐久間象山・江川太郎左衛門・高島秋帆等と交流を深めた。彼はただ利益追求の商人としてでなく、当時の社会情勢を予察し、海防論が高まると、郷里の草津の硫黄を生かし、炭と燐とで三色火薬を作った。日本各地の砲術家の火薬製法のほかオランダの文献をも研究し、名著「集要砲術新書」を出版するのみならず、作った火薬を諸藩に売り、また横浜開港時に生糸を中心に外国との貿易で莫大な利益をあげた。

当時の日本の情勢は、水戸学の徳川斎昭等を中心とした尊王攘夷論者と彦根藩主大老井伊直弼との間に將軍の継嗣問題と日米通商条約締結について大きな対立があった。井伊大老は世に安政の大獄といわれる弾圧を水戸学派等に加えた。それに止まらず条約の勅許を得ず締結してしまった。尊王攘夷派特に水戸藩の反発は強く、水戸藩の下級武士が脱藩して万延元年3月3日井伊直弼暗殺という櫻田門外の変が起きた。

井伊大老暗殺の関鉄之介実行委員長のピストル発射で事件は発生した。そのピストルは何処から手にいれたか。重兵衛が実際に渡したのであろうか。重兵衛の店員である小林某が、「ピストル型の洋傘があった」という。重兵衛の子孫である話し手の義父が重兵衛のもとで働いていたという旧家を訪ねたところ、「何人かと同じ砲をゆずっていた」という。また「いまに江戸から吉報があるぞ」とか重兵衛の使いの者が「赤鬼を退治した」との手紙を受取ったと。

重兵衛は湊川神社等に参拝したりして尊王派であるが、開国派であった。従って条約の勅許を得ず締結した井伊大老を許す事が出来なかったのであろう。櫻田門の変で水戸の黒幕となり、横浜開港にあたり、銅御殿といわれた横浜一の店を出して活躍した重兵衛も足掛け3年で歴史の中から突然消えてしまった。立派な御殿も不審火で灰燼に帰したという。幕末の大久保利通・西郷隆盛等のヒーローと異なり、一介の商人であった重兵衛には、確実な資料に乏しく、ただ最近三井の手代が「重兵衛が手広く商売をしていた」という古文書が見つかったが、彼が活躍した二年間以後の消息は分からない。平成3年「動天」という映画が作られたが、晩年サンフランシスコ街で重兵衛が家族三人で馬車に乗っている情景で終わっていた。もしこのまま明治の時代まで生きていたら三井・三菱をしのぐ大財閥となっていただろうと言われる。

(記録 近藤 泰雲)

タンゴ音楽の楽しみ

話し手 平原 俊彦
司 会 立川 富美代

タンゴは今静かなブームの中にある。タンゴブームは日本だけでなく世界的な静かなブームとなっている。

話し手は、本日のために、楽しいカットの入ったレジュメを作ってきて、それに基づいて、お話と曲のテープやCDによる演奏に楽しい一時をもたらしてくれた。

1 タンゴの誕生

タンゴの歴史を語り、アルゼンチンが発祥の地であること。タンゴはキューバの首都ハバナで歌われていたリズムでハバネラなどが元になり誕生、その後、ミロンガのリズムなどが生まれた。

「哀しみのミロンガ」など、楽しく音楽を聴きながらの解説に参加者みなうっとりとしていた。

2 タンゴ音楽の確立

「グアルディア・ヴィエハ」、我々になじみの深い「エル・チョクロ」「ラ・クンパルシータ」などを聴いた。

3 歌のタンゴ

「わが哀しみの夜」「カンタンド」など興味深かった。

4 タンゴ、ヨーロッパへ

アルゼンチンで生まれたタンゴはその後ヨーロッパに渡り、コンチネンタルタンゴを生んだ。

「碧空」などを聴いたが、もっとゆっくり聴きたいと言う声もあった。

ヨーロッパではなぜかドイツの作曲家が多いとのこと。

5 アメリカのタンゴ

「月下の蘭」や「ヘルナンドス・ハイドアウェイ」は映画やミュージカルの中で使われていることなど。

6 日本のタンゴ

「夢去りぬ」「新雪」など、服部良一曲・霧島昇の歌、佐々木俊一曲・灰田勝彦の歌など、懐かしい曲や、高峰三枝子の「別れのタンゴ」を苦しい時、中年、初老の時の歌を聴いた。皆、彼女の中年の時の歌に味があるということであった。

このサロンは皆大変楽しんだようだ。しかし、もっと沢山の曲をじっくり聴きたかった、と言う声もあった。

(記録 土井 俊玄)

四季の行事とお茶

話し手 古川 純香

司 会 土井 俊玄

先ず、現在行われている下記の行事(月日略)について、例えば、1月7日の七草、今では道端などで見掛けられなくなって、すたれて来てはいるようだが、スーパーなどでまとめて売っているので七草粥にして食しているなど、その由来や意味、そして、時代とともに変化してきた行事の内容の説明があった。

なお、行事のうち、彼岸については、後の交流時間の際、お寺に係る司会者から、その宗教的意味の補足説明があった。

昔からの伝統行事	元旦(お正月)、七草(人日)、節分(立春)、雛祭り(桃の節句)、春彼岸、子供の日(端午の節句)、七夕、お盆、重陽(菊節句)、秋彼岸、七五三、大晦日
新しい行事(国民祝日)	成人の日、建国記念日、敬老の日、体育の日、文化の日、勤労感謝の日
遊びとしての行事	春・お花見、夏・夏祭り、秋・お月見、冬・雪祭り
欧米からの伝来の行事	バレンタインデー、ホワイトデー、母の日、父の日、クリスマス
節目の行事	結婚記念日、誕生日、還暦(61才)、古希(70才)、喜寿(77才)、傘寿(80才)、米寿(88才)、白寿(99才)

以上のうち伝統行事について、共通して言えるのは、宗教的色彩を持っていること、中国から伝来したものであること、家庭内に深く浸透していることなどで、これからも続けられていくものと思われる。

次の世代に残すべき事柄には色々あると思うが、その一つはこれらの行事があるのではなかろうか。そして、その行事を活用し、家庭などでの交流の場を深める方法として、行事食ならぬ行事のお茶は…という考えを纏めたのが話し手の著書「茶の葉と遊ぼう」であるとのこと。

今日は、その中から、「敬老の日のすすり茶」と節分に因む「厄除けの節分茶」を披露したいということで社中の方によるお手前が実演された。すすり茶は、元来、お客様に敬意を表して特別に差し上げるものなので、敬老の日に相応しいのではと思います、話し手が考案したお点前。茶葉(玉露)を茶碗に直接入れ、蓋を取らずにすすりつつ飲む作法は珍しく、また、「皆様お元気で」というご挨拶も敬老の日らしさを感じさせる。

節分茶も話し手考案のお手前であるが、鬼に取られないようにと茶器を茶びつの中にかくしておき、必要の時に取り出す作法や、お手前の前後に豆がまかれたり、鬼に扮した人(社中の方)が登場するなど節分らしい楽しい演出であった。その後、「番茶と煎茶の違いは?」「煎茶道の普及した時期は?」などの質問に話し手が答える交流時間に入った。

(記録 須藤 英雄)

がんについて その2

話し手 長町 幸雄

司 会 加藤 寛

このサロンでは「がんにかかわる諸問題」をとりあげ、癌治療の医師側からみたこれ迄の軌跡と患者側に立ったQOL(生活の質)を重視した近未来の癌治療展望が話題になった。以下に内容の要約を記す。

1 がんを扱う医師と患者の立場からみた癌告知の現状とその功罪

本邦医師による癌告知率は欧米各国(ことに米国のほぼ100%)に比べて低値である。例えば、1980年代の癌告知は早期癌患者に対しても、40～50%であり、進行癌患者に対しては20～30%に止まっていた。1980年代になると、最も告知率の高い医師で80%となり、10年前よりは告知率の増加傾向を示したが、米国には及ばないのが実状である。告知の方法や時期及び告知対象の条件なども詳しく説明された。癌告知がメリットとなる場合は、医師と患者・家族との間に良好な関係が保たれて、患者が積極的に治療チームの一員となって癌と闘える態勢が整う場合であり、告知が功となる。他方、医師の不用意な告知がかえって患者の予後を悪くする場合もあり、罪となる事例なども示された。

2 高齢化時代の癌治療の適応とその限界

単に高齢であるというだけで、患者を手術を含めた積極的な癌治療の対象から除外はしない。慎重な術前検査結果、患者に予備力が認められ、合併症がなければ80才以上でも若年者に準じた治療法を選択出来ること等が講師の臨床実績から具体的に示された。

3 これから起こる癌治療の個別化

癌は遺伝子発現の病気であり、これからは、起始遺伝子の段階から癌のたどる経過を予想した予防や治療対策を練る時代に突入する。同じ臓器の癌でも、個人によって個性が異なるので、遺伝子も含めたさまざまな情報を集めて癌の個性を判別し、的確な治療を行える時代が眼前に迫っている。

4 治療が望めない癌患者の医療

あらゆる癌治療後、5年生存率は早期を除けば約60%である。癌には闘うべき癌と共存を考える癌があり、その見極めと対応が大切である。あらゆる治療法の適応対象から除外された末期癌患者に行われるのが、ターミナル・ケアである。実施に当たっては、医師とナースおよび患者と家族の相互信頼関係が必須条件となる。従来は「進行癌は治せない」と考えられたが、現在では血液癌、卵巣癌及び睾丸の癌などは化学療法の奏功する場合があります、癌に対しては一概に悲観せず、ネバー・ギブアップ思考で、医師と共に闘える場合もあることを知っておくべきであろう。

5 癌の情報提供と遺伝子診断の社会問題化

遺伝子変異を血液検査で診断可能な時代となり、既に米国を初め本邦でもこれらの検査が商業レベルでも行われだしている。ユダヤ系のある種の米国人女性に発現する遺伝子変異が乳癌、卵巣癌の高率な発生に結びつく事実は有名であり、このような症例には癌になる前に乳房や卵巣を摘除することが必要であり、遺伝子診断結果を告知された本人と家族の心中や決断を察すると、只事ではない。また遺伝子診断の結果によっては、生命保険料金や健康保険からの除外、結婚問題および雇用問題などの特別な対応を考慮するような道徳上、社会問題上の難題も発生する筈である。遺伝子を扱う科学の進歩が医学全体に大きな影響を与えることを認識して、医学が誤った方向に直進しないことを祈りたい。

講演後のフリートークでは参加者と話し手との間で活発な質疑応答が繰り広げられ、身内の病気体験から

の反省や自分自身の胃や大腸ポリープなどに対する治療指針の確認など「対癌戦略や予防対策」への関心がアピールされた。話し手から癌を扱う医師としての心構えなども体験談を交えたスライドの供覧による解説が加えられ、盛会裡にサロンを終了した。

(記録 山下 安雄)

「季春蘭」の数奇な運命とその時代

話し手 渋谷 文雄
司 会 川口 實

李香蘭が幼年期の頃の時代背景は、日本を始め世界的に植民地拡大時代で戦争への道を歩んでいた時期であり、厳しい社会であったことが説明された後、資料に基づき、より詳細な説明があった。

1 時代背景(戦争への道)

①「文明開化」明治維新から「富国強兵」そして日清戦争(1894)、日露戦争(1904)、韓国併合(1910)、辛亥革命(1911)、ロシア革命(1917)、梨本宮方子と英親王(1920)、日中戦争(1931)、満州国設立(1932)、嵯峨侯爵家の浩と愛親覚羅溥傑(1937)、太平洋戦争(1941)、敗戦(1945)、日中国交回復(1972)と続いた。

②帷幄上奏権(統帥権=超法規的思想)

軍人勅諭「我国の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にぞある」

司馬遼太郎「昭和6年以降、日本は陸軍の占領下にあった」

2 生い立ちと幼年期

- ・1920(T9) 山口文雄 1889 生 (M22)・石橋アイの長女、淑子として奉天郊外の北煙台にて出生、撫順に移る。
- ・1932(S6)9.18 柳条湖事件(満州事変)発生
- ・1932 平頂山事件に遭遇・宣統帝(溥儀)執政となる。
- ・1933 瀋陽にうつる、李際春・リュウバ・マダム、ポドレソフとの出会い。
- ・1934 李香蘭の名で「満州新歌曲」を放送、ときに14才。

3 北京へ留学(両親が政治家を希望していたため)

- ・リュウバとの別れ。瀋淑華として、梅原龍三郎のモデルに。
- ・男装の麗人、川島芳子との出会い、そして蘆溝橋事件(S12)発生。

4 国策に踊らされて

- ・五族協和(日・満・漢・鮮・蒙)王道楽土・大東亜共栄圏。
- ・満映(長春電映)入社 1938(S13)『蜜月列車』で女優「李香蘭」として初デビュー18才。つづいて『東遊記』原節子、霧立のぼる、高峰秀子、沢村貞子、藤原釜足などと共演する(甘粕正彦理事長 1939年)
- ・『白蘭の歌』『支那の夜』『熱砂の誓い』大陸三郎作、長谷川一夫・『蘇州の夜』佐野周二と共演。
- ・鈴木重吉・内田吐夢・木村莊十二・鮎川義介・岸信介・松岡洋介らとの出会い。
- ・日劇七回り事件、1941(S16)21才、児玉英水・松岡謙一郎(初恋の人)
- ・川喜多長政との出会い『万世流芳』出演 1943年(S18)
- ・満映退社(S19)中華電影に移籍。
- ・夜来香幻想曲リサイタル 1945年5月25才、リュウバとその家族と再会、ソ連領事館対策。
- ・8月15日直前の上海。

5 敗戦・軟禁・帰国

- ・漢奸裁判(三大文化漢奸)川島芳子・李香蘭・東京ローズ
- ・日僑収容所、地下組織から誘惑、銃殺刑の報道、リュウバと戸籍謄本、46年軍事裁判の判決
李香蘭は戸籍謄本で日本人である事が確認され無罪となる。(中国国民に対する裁判で非国民的な活動に対する裁判)
- ・2月28日、港湾警備隊指令部に再抑留されたが、3月末雲仙丸にて帰国

(質問) 季香蘭だけが、なぜ漢奸裁判で無罪になったか

- ◆この裁判は、中国人に対する裁判であった。 季香蘭は戸籍謄本があったため、日本人であることが確認され無罪となった。 なお裁判官も 親日家であったのかもしれない。 残る二人は戸籍謄本がなく証明できなかったものと思う。

6 再起・結婚

- ・鎌倉での生活・声楽家・舞台俳優・映画界に復帰
『復活』 滝沢修・森雅之・山形勲・宇野重吉・薄田研二などと共演する。
- ・『わが生涯の輝ける日』『情熱の人魚』『流星』『帰国』『醜聞』『暁の脱走』 1949～1950 (S30 年) など出演
- ・ブロードウェイ『東は東』『マルコポーロ』
- ・石垣榮太郎・綾子夫妻の紹介で、イサム・ノグチと結婚 (S26) 31 才、猪熊夫妻(イサム)、川喜多夫妻(淑子) 媒酌人 梅原夫妻
- ・父母の離別、佐賀へ引退したが、後日復帰
- ・『戦国無頼』『上海の女』『風雲千両船』『霧笛』 (1952) など出演

7 国際女優・離婚・引退・再婚

- ・マッカーシー旋風(赤狩り)再渡米 1954 年(S29)
- ・ハリウッド映画『東京暗黒街』ABCテレビ『津波』に出演
- ・イサム・ノグチとの離婚 1956 年(S31)、ブロードウェイ、ミュージカル『シャングリラ』、外交官(28 才)との出会い『東京の休日』で引退
- ・大鷹弘と再婚 1958 年(S33)38 才、以後 10 年間専業主婦

8 新たな仕事

- ・『3 時のあなた』フジテレビに出演 1969(S44)49 才、ベトナム・カンボジア・アラブ・ヨルダン・レバノン・イスラエル・赤軍派女性幹部とのインタビューなどを行う。
- ・日中国交回復 1972 年(S49)9 月、その頃田中角栄との出会い。政界に入る。
- ・参議院議員 1974 年 (S49) 環境政務次官 1978 年 58 才、3 期 18 年平成 4 年に引退 72 才
- ・リューバとの再会 1998 年(H10)99 年にテレビで放映される。
- ・現在 大鷹淑子 80 才、アジア女性基金理事。

(質問) 現在の健康状態は、又何処に住んでいるのですか？

- ◆健康で都内千代田区一番町に住んでいる。

9 付録 何日君再来

好花不常開 好景不常在 愁推解笑眉 淚酒相思帶 今宵離別後 何日君再来 喝完了遺杯 請進点小菜
人生難得幾回醉 不飲更何待 来来来 喝完了這杯再說把 今宵離別後 何日君再来

厳しい時代を生き抜き、戦後は、映画界に復帰し大活躍され、さらには政界で活躍されるなど、時代背景を含め、参加された方々には十分に、理解されたものと思う。

(記録 小林 貞男)

オペラはこんなに楽しい パートII

話し手 石田 雅巳

司 会 大串 延子

表記の演題で、文字通り楽しい集会となったが、内容は高度で、専門的であり、これを要約することは、大難事である。従って、ここは、話し手の提示された講義レジュメを引き写すのみに留める。所蔵の貴重なビデオ映像を中心に、話が進められた。

1 アリアの形式

①ナポリ派の定形 A-B-A ダ・カーポ形式

例：ヘンデル：ジュリオ・チェザレのクレオパトラのアリア(第二幕)－1724初演

A 神よ、もしもこの私を哀れとお思い下さらぬなら、私は死ぬよりほかにありません。

B 私の苦しみに安らぎをお与え下さい。さもなくば、私の魂は生き絶えてしまうでしょう。

この状態を説明するのに、これに先だってレシタティーヴォがあり、彼女の悲しみや苦悩に至る経緯を述べる。→アリアが歌われている間は、ドラマの進行は停止してしまう。

②イタリア初期のロマン派オペラ：カヴァティーナ(カンタービレ) カバレッタ形式

例：ベッリーニ、ロッシーニ、ヴェルディ初期

シェーナ部分があつて事件がおこり、続いてテンポの遅いカンタービレで情感のある歌をうたう。

この終わりに技巧的なカデンツァがある。再びシェーナがあり新しい展開をし、最後に多少感情が激しく、やや速いテンポのカバレッタが繰り返され、合唱を伴って終わることが多い。

・ヴェルディ：椿姫「ああ、そはかの人か」－1858初演

i) E strano! e strano! ii) Ah, fors' e lui iii) Follie follie iv) Sempre libera degg' io
Beverly Sills 1976

Filene Center Orchestra Cond. by Julius Rudel

・プッチーニ：トスカ「歌に生き、恋に生き」M. Callas(1958)

Orch. Du National de l' Opera de Paris Cond. by George Sebastian

2 歌手の声質

レジェーロ、リリコ、リリコ・スピント、スピント(ドラマティコ)

3 母音唱法

コロラトゥーラ(多彩さ)、フィオリトゥーラ(花盛り)、ブラブーラ(熟達)、アジリタ(敏捷)

4 カストラートとカウンターテナー

①アレッサンドロ・モレスキ(1858～1922)

「理想」トステイ(1902録音)

②ヨッヘン・コヴァルスキー

「こうもり」オルロフスキー侯爵のアリア(1990)

ロイヤル・コベントガーデン・オペラ R. ボニング指揮

J. サザーランド引退記念公演

5 過去の名歌手(～1950年)

・カルーザー(1904) 「おおパラダイス」「人知れぬ涙」「笑えパリアッチョ」

・B. ジーリ(1935) 「オ・ソレ・ミオ」「忘れな草」

- ・ T. スキーパ(1932)
- ・ シャリアピン イベール作曲ドン・キホーテ「この美しき城郭で」
- ・ イワン. コズロフスキー(194?) リゴレット「女心の歌」
- ・ セルゲイ. レマシヨフ (194?) オネーギン「いずこへ」
- ・ マリアン. アンダーソン(1957) シューベルト「アヴェ・マリア」
- ・ ユツシ. ビョルリンク(1950) ファウスト「この清らかな住まい」
- ・ ビドウ. サヤン(1950) アーン「わが歌に翼ありせば」
- ・ リヒャルト. タウバー(1935) ジチンスキー「夢の街ウィーン」
- ・ レオ. スレザーク(1928) ヴォルフ「沈黙の愛」
- ・ ジョルジュ. ティル(1930) ローエングリン「遙かな国に」
- ・ グレース. ムーア(1938) ルイーズ「その日より」

6 現代の名歌手(1950年～)

- ・ マリオ. デル. モナコ&テバルディ(1961) アンドレア・シェニエ「終幕」
- ・ リチア. アルバネーゼ(1961) 「帰れソレントへ」
- ・ フェルッチョ. タリアヴィーニ(1954) アネマ・エ・コーレ愛の妙薬「人知れぬ涙」
- ・ フランコ. コレツリ(1973) アンドレア・シェニエ「澄み渡った青い日に」
- ・ アルフレード. クラウス(1988) ホフマン物語「何という喜びで君は私の心を燃やすのだろう」
- ・ モンセラット. カヴァリエ&ホセ. カレラス(1976) NHKイタリアオペラ
- ・ アドリーナ. ルクヴルール (19??) 「私は神の卑しい下僕」 「優しく微笑むその姿」
- ・ フィオレンツァ. コッソット(19??) アドリアーナ・ルクヴルール「さまよえる東方の星よ」
- ・ レナータ. スコット(1991) ジャンニ・スキッキ「私のお父さん」
- ・ マリリン. ホーン(1983) サムソンとデリラ「君がみ声にわが心開く」
- ・ ルチアーノ. パヴァロッティ(1981) リゴレット「女心の歌」
- ・ プラシド. ドミンゴ(1978) カルメン「花の歌」 (クライバー)
- ・ ホセ・カレラス(1988) 「グラナダ」

(記録 石井 充)

余暇の生かし方 ーレクリエーションの勧めー

話し手 川津 鐵禮
司 会 濱野 幸雄

揺り籠から墓場まで、一よく学び・よく働くー 日本では、伝統的に「遊び」はよくないといわれている。しかし人間には、動物とは違って食事・休息・排泄・労働の四つの外に心豊かで、創造的な楽しい人生を追い求める本能がある。この要求に答えるものがレクリエーションである。人間生きている限り、喜び・楽しんで過ごしたい。寝たきりの人でも、その人に合った楽しみがあるはず。楽しみ方は、心理的・情緒的な楽しみ方・趣味も探検等も暇な余りではなく、これ等の楽しみを総括的にレクリエーションという。

余暇の過ごし方の開発一定年後、夫婦の仕事を逆転させたら、男性は家事の楽しみも自然とできてくる。一般的に趣味を持たない人は、趣味を持っている人に比べて、精神障害になり易いし、なつても治りが遅い。また再発が多いし、ボケになり易いといわれる。定年後、趣味もなく仕事一途に働いた人は、退職後の生活設計ができていない人に比べ早死にする傾向がある。児童の精神障害患者の家庭をみると、両親が趣味を持って余暇を楽しんでいる家庭とそうでない家庭とでは、子供の精神状態に大きな差がある。従って親の教育水準が高くても、家庭にうるおいのない子供は寂しさも手伝って非行に走り易い。

余暇開発センターの調査によれば、自分に合った趣味・余暇を見つけるには最低15年、それを活用し自分のものにするには15年、合わせて30年かかるといわれる。従って45才ぐらいから心掛ける必要があると。

人生80年といわれる今日、男性の場合生涯時間70万時間あり、その内仕事・学校等々の時間は45万時間、残り25万時間がリタイアしてからの時間である。この時間を利用して、自分の今の状態を分析して、自分に合った余暇利用を考える必要がある。資格を取ったら活用等と考えず、資格を取る過程を楽しみ、仲間と俳句・スケッチ・バードウォッチング等に出掛けるもよし、また発想の転換をして料理に挑戦するのも良い。個人的には、アウトドア活動・野外活動がおすすめ。写真を始めるのも良いと思う。外国では余暇時間を上手に使いこなせない人には、高い地位を与えられないといわれている程、余暇の活用を重視要している。

最後に出席者全員に余暇について、自分自身の「余暇生活度チェック」、「余暇生活パターン・チェック」、「レジャー新人類度チェック」、「老人ボケ予測テスト」、「久里浜式アルコール症スクリーニングテスト」を行った。その中で、「定年後の時間」(奥井式余暇設計態度チェック)の一日の計画表作成があった。多くは睡眠時間から計画を立てていたが、会員の一人だけ趣味の時間の設定から計画を立てた様子。ご立派な発想と全員感服。

余暇は自分で作るもの、趣味を一つでも増やし、あくまでも過程を楽しむことが大切である。

(記録 近藤 泰雲)

法律はボケとたたかえるか

話し手 藤野 豊
司 会 野末 孝雄

話し手から、裁判官 30 年、検事 7 年、公証人、弁護士等の主に歩んできた司法の話を聴きテーマに進んだ。

新しい「成年後見制度」とはどういう制度だろうか。今、我が国は急速に高齢化している。それによって、様々な支援を必要とする人が増えている。このことに社会制度として対応しようとしている。法律分野では権利擁護システムとして、今までは未成年者の後見と成年者の後見を合わせて「後見」といつて来たが、今後は、未成年者とそうでない者との後見の内容が大きく異なってきたので、未成年者後見と成年後見をはっきり区別して議論する必要があると思われる。

【一緒に考えよう】

ここでは任意後見のことを考える。法定後見は、交通事故で突然植物状態になったときなど、任意後見の準備ができなかったときなど、例外的な場合だと考えてよい。

Q：父は、まだ全然ぼけていません。今から任意後見の制度を利用できますか？

A：できます。

Q：家の祖父は、最近ボケが目だって来ましたが「俺はぼけてない。ボケになんかなる筈がない」といつて任意後見の話に見向きもしません。どうしたらよいのでしょうか？

A：財産を管理・処分する判断力があるか、ないかで決まります。精神科医の判断が重要です。

Q：家の祖母は、一人で留守番はできますが、先日消防署の方から来たという男の口車に乗って消火器を買わされました。任意後見の始まりだといえるのでしょうか？

A：それだけでは任意後見の始まりとはいえないでしょう。

等々。

【成年後見制度の主な特徴】

- ①判断能力が減退する前に、将来サポートしてくれる人を選んでおけるようにする。
- ②少し判断能力が減退した状態でも、法的なサポートが受けられるようになる。
- ③財産管理的側面だけでなく、心身の状況、生活の状況に配慮したサポートが受けられるようになる。

介護保険制度とともに、平成 12 年 4 月 1 日お年寄りの財産を管理する制度としてスタートした、高齢者の財産や生活を守る切り札と期待される制度である。

後見人になる人は、本人の家族（ぼけた老親と同居している子どもなど）が 60%くらいで、弁護士・司法書士などのプロが 40%くらい。

（参考）

***関係機関の所在、電話**

- ・東京弁護士会 高齢者・障害者支援センター「オアシス」 東京・霞ヶ関 電話 03-3581-2626
- ・第二東京弁護士会 高齢者財産管理センター「ゆとり一な」 東京・霞ヶ関 電話 03-3580-6688
- ・(社)成年後見センター「リーガルサポート」 東京・市ヶ谷 司法書士会館内 電話 03-3353-8291

・八王子市社会福祉協議会 市役所 11 階

電話 0426-20-7333

・東京都社会福祉協議会権利擁護センター 「すてっぷ」 飯田橋駅前

電話 03-3268-2140

＊任意後見の費用

・弁護士会 財産管理 月 3 万円程度（月 1、2 回の訪問で）

調査費 5 万円～20 万円程度

・司法書士会 通帳、権利書などの預かり 月 2,000 円

財産管理 月 28,000 円（月 2 回程度の訪問で）

・社会福祉協議会 書類の預かり 月 1,000 円

日常的金銭管理サービス 1 回 1 時間まで 2,500 円（通帳を預かる場合）

福祉サービスの利用援助 1 回 1 時間まで 1,000 円

・公証役場 任意後見契約公正証書の作成費用 11,000 円くらい。

・家庭裁判所 任意後見監督人の報酬の決定 まだ実例が少ない。

（記録 小阪 善治）

コロンブス以前に世界をリードしたアジア

ーその時の八王子ー

話し手 川口 実

司 会 大山 泰

ジャーナリストから実業界に転じ、現在中国との合併会社会長。大連理工大学教授。『八王子今昔物語』の著者。用意された次のレジュメ項目に従い、途中質問時間をはさみながら順次説明があった。

1 身近な歴史から

①兼好法師の徒然草が教えてくれるブランド商品の輸入ー南北朝時代ー

徒然草には、当時の中国との交易を記した部分があり、渡来品の一端を知ることが出来る。

兼好法師は、「唐物には実用にならぬ無駄な物(薬品の他は)が多い。書籍類は書き写せばたりるのに。」など厳しい見方をしている。

②八王子城から出土した「ベネチアガラス」について

イタリアで流行したレースのハンカチの模様をあしらったベネチア製のガラス破片が八王子城の発掘調査の際出土している。このレースガラスは、当時16世紀の貴重な特産品であり、これを取得した北条氏の海外貿易の活発さ、これを使った城主、北条氏照の生活振りを察することが出来る。

③ペスト(黒死病)のルーツは中国雲南省

金・銀の産地として有名な雲南地方の大理をフビライの率いるモンゴル軍が南宗包圍作戦の一環として侵攻、征服したが、その際、馬の鞍下に紛れ込んだ蚤を媒体にペスト菌が、モンゴル軍の西進とともにヨーロッパ一帯に広まり、各地に甚大な被害をもたらしたといわれる。

④奈良東大寺の大仏と中国洛陽の龍門石窟の毘盧舎那仏との関係

中国三大石窟の一つといわれる龍門石窟には、則天武后に模して作られたという毘盧舎那仏があるが、聖武天皇発願による奈良東大寺の大仏は、これを参考に作られたという。

⑤コロンブス・バスコダガマと鄭和の大航海

皇帝(永楽帝)の命に従い、インドのカリカット、更には、ペルシャ湾の入口、ホルムズを目指した明国、鄭和の大航海は、アメリカを発見したコロンブスやインドに到達したバスコダガマの著名なそれよりもはるかに早く、その率いる艦隊も比較にならぬほど大規模なものであったと言われる。

2 歴史観の意味するもの

①ヨーロッパ旅行でだまされる世界史

ギリシャ、ローマの遺跡を見せられ、その文明がそのまま継承されているものと思うのは間違い。ギリシャ、ローマの文明は、イスラム(アラビア語で)により継承され、その後、ラテン語に翻訳されて現在に引き継がれている。

②モンゴルから始まる世界史

4大文明の交流に貢献するなどユーラシアに版図を広げたモンゴル帝国の世界歴史に果たした役割は大きい。流鏑馬などもその名残で、その影響は我が国にも及んでいる。

③八王子について

話し手はアメリカの代表的な学園都市であるボストンの例を紹介し、八王子にはボストンの様な学園都市の顔が見えないと指摘した。また、ミケーネ遺跡発掘で著名なシュリーマンが、幕末に来日しその滞在中、八王子にも訪れ、その印象を旅行記(「シュリーマン・日本中国旅行記」の第5章八王子)に残していることを、内容を含めて紹介があった。

(記録 須藤 英雄)

短 歌 い ろ い ろ

八王子の歌人・鈴木一念と俵万智

話し手 小原 康直
司 会 石井 實

短歌のいろいろと題して、資料に基づいての講義。 短歌には流派が多く、今回は特に八王子出身の鈴木一念を中心に説明に入る。

1 鈴木一念の出生

- ・ M34 父の営む糸商の商人宿(八日町・料亭「千登世」の近所)の三男として生まれる。本名 金二
- ・ T4 14 才、八王子尋常高等小学校卒、東京府立織染学校付属工業補習夜学校に通う
- ・ T10 20 才で短歌結社アララギに入会(1 月)、「新しき村」村外会員入会(4 月)、夏神経衰弱のため、アララギを退会
- ・ T11 生家の一隅で魚屋を始める(魚屋の金ちゃんと呼ばれ親しまれる)
- ・ T15 病癒えアララギに再入会
- ・ S3 27 才、生家の女中の都留(16 才)と結婚
- ・ S11 四男「涅槃」の病死に因り極度の神経衰弱に陥り一家心中を図る。 三男一念を扼殺したが自分は未遂。 その夜、斎藤茂吉(日本一の短歌人)、土屋文明が八王子警察署を訪ね、署と折衝の結果、十日後に、茂吉が経営する青山脳病院に入院(茂吉は入院料を一切無料とした)以後一家は離散
- ・ S13 6 月青山脳病院を退院。筆名を一念とした(三男の名)
- ・ S15 写真ニュース社、巣鴨保養院看護人(茂吉の斡旋による)等を経て多摩病院看護人の職を得た(これも茂吉、文明等の折衝による)離散家族も解消する
- ・ S18 病院勤務のかたわら大屋鉄工所で働く
- ・ S20 B29 による空襲に会う(引越していたため空襲の被害は免れる)
- ・ S22 樋口織物工場に勤務(病院の看護人は続ける)
- ・ S28 斎藤茂吉死去(71 才)
- ・ S32 56 才、多摩相互病院で直腸癌手術(2 月)、退院後病状悪化、10 月 20 日永眠
歌集『明闇』(S16 年 9 月刊行) 歌集『七年』(S28 年 4 月刊行) 歌集『香水草』(S62 年 8 月刊行)

2 ゴッホの絵と一念の短歌

昨年末より渋谷の東急で催されていたゴッホの絵画展を観覧したことにより、私はゴッホの生涯、そしてその作品への理解が深まると同時に、青年時代からゴッホの画集を「バイブルの如く」身近に置いていたという、鈴木一念の歌に見えるゴッホの影響、その光と影を感受する事ができた。 ゴッホには濃い黄色の炎が、大地を這い登って行くような「カラスの麦畑」、そして「麦畑の糸杉」等があり、一念には「ゴッホの絵に見る如き麦畑ひらけて長き傾斜を自転車にてくだる」そして歌壇でも高い評価を受けた「前景は麦の中にて働く人ら遠富士は雪と藍の斑やま」等々があった。

かつての一流歌人、短歌評論家でもあった上田三四二(故人)は、この一首(後者)に対し「遠近法を言葉で実行して、色彩感を際立たせた、絵画的な一首である」と一首の遂げた歌の成果を賞賛している。 ゴッホには人間不在の椅子をテーマ(主役)とした絵と人間不在の椅子を点景(脇役)とした絵が各々幾つかある。 不在の椅子には有るべきもの(人間)が無化したことによる、とでも言うべき孤愁の表情があった。 そして一念にも孤愁漂う椅子を詠んだ一首に「二十年近く精神病院の看護人なり夜の廊下の椅子」があった。 神経衰弱の持

病に悩まされて来た自分が、精神病院の看護人であるという、ジレンマに疲れ果てていた一念にとって、夜の廊下裸電球の下でボーッと浮かんで見える椅子は、ゴッホの描いた椅子、そして自分の化身の如くでもあったに違いない。自らを常套的手法で(…椅子の如し)と、直喩で表現せず、名詞止めの暗喩の手法を採ったことで、一首は大きな余韻を孕むこととなった。(敬称・略)

(付記)周知の如くゴッホは精神病の発作(再発)の末、1890年フランス・オーヴェールの畑の中で、ピストルによる自殺を遂げた。

一念には洋画家で、日本芸術院会員の兄、鈴木信太郎がいた。

3 仏教と一念の短歌

一念が親炙していたと思われる教義に、浄土宗開祖の法然、そして法然の教えを継承し敷衍した浄土真宗開祖の親鸞が説いた、「一念往生」があった。一臨終のとき一度だけ阿弥陀仏を念ずれば、極楽に往生出来る—というおしえて、四男「涅槃」三男「一念」とした命名自体に父一念(その時は金二)の、子供達への並々ならぬ愛情を窺い知ることができる。したがって三男の扼殺(S11年)は涅槃の死に因る余りの衝撃で、子供への愛情が持病である神経衰弱の急激な進行と相乗して極限にまで増幅してしまった結果逃げようとした一家心中の一つの結末に外ならない。

三男の扼殺から十八年後に詠まれた次なる秀歌に依り、己が一世を改めて扼することになった。「厠外に鶏しゃがれ啼き嘗てわれ己が児をひとり絞め殺しにき」鶏のしゃがれ声は、自分が陥れた、三男の煉獄修羅における、苦悶しゃがれ声に転化していく。一首は第三者(読者)の如何なる抒情的共感をも排除した、文学的リゴリズム(厳格主義)により、類歌を許さぬ歌として屹立した。(アララギ流に言えば生活活写の極限を往くものである)。金二をやめ、一念を生きることにした(昭和13年)彼の金二自らへの裁きと、三男一念への愛惜が、今は同体になった一人の一念に対し、アンビバレンスに並存する見事な一首でもある。

法然や親鸞に自らが密接する次の一首があった「七十まり六つの法然いまだ若き親鸞以下もととりどりの流人」他の諸歌で補えば、阿弥陀の結伽図や鑑真像の古ぼけた写真を壁に貼った、脳病院の寒い宿直室で、七輪で熾した炭火を移した火鉢に手をかざし、身を屈めている夜もあった。かかる寂寞の栖に棲む自分を「とりどりの流人」の一人になぞりながら法然、親鸞の教えによる救済を心静かに享受していたに違いない。「とりどりの流人」という優れた措辞は、七人の流刑地がそれぞれ異なっていたという、史実に基づくもので、それ故に七人の流人人生の有体もまた、おのずとりどりであったという、作者の認識が示唆されていて、歌を深くした。

(付記)七十まり六つは七十六才の意味、承元元年興福寺派の讒訴により、後鳥羽院が流罪にした浄土念仏門の指導者は法然、当時35才であった親鸞を含め七名であった。

4 俵万智の特質

俵万智は鈴木一念がこの世を去った五年後の、昭和三十七年大阪の生まれで、既に日本の経済成長が軌道に乗り始めていた時期であった。早稲田大学第一文学部に入学し、歌人佐々木幸綱(国文学の教授)との出会いを契機に、短歌を作り始める。昭和三十年代より歌壇に新風を吹き込んでいた幸綱の影響もあって、俵万智の第一歌集「サラダ記念日」(昭和六十二年刊)は現代短歌の有り様そのものを覆しかねない程の、更なる新風となり、与謝野晶子・斎藤茂吉すら凌駕して万智(待)現象と言える程の売れ行きになった。

俵短歌の特色を言えば、日常生活の中でふと感受したことを、短歌という舞台に相応するように再構築して見せるもので、本人の自歌自注に依れば「原作、脚色、主演、演出=俵万智一人芝居」という事になる。かの「一人芝居」の何れを見ても一経済が高度成長を遂げた世につれて— 煩悩や失意と無縁で、どれもこれもまことに心地よい煌めきに輝いている。(かくて、自らの苦悩と共に在った現実を、厳格、厳密に活写し続けた鈴木一念の短歌とは対極の歌質になった)。

「一人芝居」を成立させる俵短歌の、秀でて独自の技法(演技)も又見逃す事ができない。一例として「愛人でいいのとうたう歌手がいて言ってくれるじゃないのと思う」を挙げる。一首は正確に言えば五、七、五、七、七ではなく七、五、五、十、四、によって成立している。全体は三十一音でありながら、句跨りの破調ではある。短歌と言う舞台は舞台として在らしめ乍ら、舞台を構成する、たとえば柵や垣根はという技法を巧みに駆使しながら自在に飛び越えてしまう、斬新の演技になった。先に触れたテーマとこの演技力の相乗効果が、大観衆を歓びの坩堝に巻き込んだのであった。

作家倫理の側面から言えば、日本人の体質の相似形とも言われる、古典的な短歌律とあくまでも（それを下敷きにしながらの）句余り句跨りの万智口語との一首に於ける相克が、可逆的に現在短歌としての成果を生むことになった、ということができる。

鈴木一念の歌との、限らない隔たりを再確認するために、俵万智の詠んだゴッホの絵にかかわる一首を挙げる。「ゴッホ展ガラスに映る私の顔ばかり気にして進める順路」一首におけるゴッホの絵は、歌のテーマとしてではなく、一人芝居を盛り上げるためのまことに贅沢な、舞台装置にすぎない。

(記録 小林 貞男)

色 彩 の い ろ い ろ

話し手 石井 充

司 会 中野 義光

1 色は覚えられるか

本題に入る前に白と黒の色について話があった。「塗料用標準色見本帳」によれば、黒は1で白は9.5になっている。理論的には、純白は10である筈なのに、現実には9.5が最高に白ということになる。

同様に1より少ない数の黒はないのであるということである。

- ・私達は外壁や、壁に塗装をしたい時に、前に塗ってあった色とか、または他人の家の塗装色が素晴らしいので、今度もその色にしたいと注文した時、塗料屋さんでは、前記の色見本帳で選んでくれと言う。そこで私達はこの色だと断定しても、それが間違っていることが多い。
- ・自分ではこの色に間違いないと思っても違ってしまうのは、色は塗ってある面積の広い、狭いによって同じ色でありながら異なって見えてしまう。人間の目の錯覚によるのである。

2 同じ色とはなにか

- ・人間は異なった色は判る。しかし、同じ色は仲々判らないし、わかりにくいものである。
- ・(何々ペイント)と呼ばれる大手の塗料メーカーでさえ、例えば前回大きな橋梁に塗った色と同じ色をという注文に対して、専門の職人(工員)が2人合格だと言え、それは注文通りの色になるということで、精密な機械判定ではないそうである。
- ・塗料を混ぜて、希望の色を作るとき、例えばグレーをつくるという場合、Aという職人は白に黒を徐々に混ぜて作り、Bという職人は黒に白を少しずつ混ぜて作るというように、それぞれ職人による癖がある。

3 マンセル色票

- ・この色票は、アメリカの画家であり色彩の教育家であったマンセルが創案し、1905年に発表した色表示の体系のことをいう。この体系に1930年代の末頃から、アメリカの光学会の測色委員会が科学的な検討を加えて1943年に修正マンセル表色系として報告され、日本でもこの修正マンセル表色系を制定し、1959年「JIS標準色票」の初版が発行された。これが現在、各方面で使用されている標準色票である。このマンセル表色系の表示方法は①色相 ②明度 ③彩度の3つで表わされている。これは現在、学校教育の中でも教えられている。
- ・色の表示方法は、色相→明度→彩度の順に表示される。

目立つ色というのは人によって異なり、目立つ色だと感じる場合、その色はその人にとって相性が悪いとも考えられる。人間の本能的な欲望をかきたてる色もある。太陽光線に弱い色、強い色もある。

とにかく、色は私達人間にはかり知れない影響を与えているのであるが、それが意識されている場合も、全く無意識に影響されている場合もあるので、色について関心を持つことも大切である。

(記録 土井 俊玄)

21世紀に残したいもの

話し手 近藤 泰雲
司 会 小坂 善治

話し手は「21世紀とは少々オーバーかも知れないが、せめて次の世代に何か心に残る贈り物をしたいと思う」という開講の動機から話をはじめた。

私は四十才前後から出家願望をもったが、妻子の生活を思い断念した。定年を近くにして後顧の憂いも去り、漸く出家することができた。若い修行僧と共に、一からの修行に勤めたことにより、この歳にして叱られる怖さと、褒められることの喜びを真から体得する事が出来「宗教とは心の在り様を極めることである」と受戒した。

今、私達は科学の進歩によって、半世紀前とは比較にならぬほど豊かな物質に恵まれ、便利な生活を享受しているが、それに引き換え昨今における人心の荒廃は眼を覆わんばかりである。

私達は次の世代に、このような悲しい恥ずべき軽薄な文化を継承させるわけにはゆかない。日本の美しい伝統文化と、心豊かな精神文化を遺し伝承したいものである。

それは「礼」「知恥」「和以貴為」「善惡のけじめ」「衆知の技能」「伝統行事」「自然環境」「感謝の心」などに集約される「常に他を思いやる心」を伝承することにあると思う。

私は、今、信州のアルプス山麓にほど近い末寺で、住職として仏門にあるが、美しい自然の風物に恵まれ、素朴な村人からの心暖まるお布施に接し、法施をもって報いる感謝の生活を満喫している。仏教は幾つかの宗派に別れるが、あれは学者の遊びであって、究極はお釈迦様の教えに帰結する。仏の慈悲の心こそ、私達が帰依すべき釈迦の教えだと思う。

お話の要旨は以上のようなことであった。サロンに集まれた一般会員の多くは、昨年も近藤住職の講話を受講された方々で、「今年のサロンが待ち遠しかった」、「お話を聴いてから荒んだ心も消え、宗教心をもつようになり感謝の日々を過ごしている」、「ぜひ又お話を聞かせてほしい」などの感想が述べられ、大変好評なサロンであった。

最後に『美しき天然』『故郷』『四季の歌』『アザミの歌』『子守歌』『夕焼け小焼け』など住職の選ばれた童謡などを唄って解散となったが、昨年に続き、住職手作りの「しおり」が全員に配られ、再会を約して終講となった。

(記録 渋谷 文雄)

江戸時代の庶民の暮らし点描

話し手 向山 光春

司 会 井口 禎

話し手は先ず自らの姓の読み方を説明した。それによると「むかいやま」が正当で、出身地・信州伊那ではその読み方であるが、山梨県や静岡県では「むこうやま」と読むようである。

珍しい姓の例として、「斑目」または「班目」と書き、「まだらめ」とよませる一族の集団里帰りが1300年振りに実現したという新聞記事を紹介された。また、国分寺市と国立市との境で、「毛受(もず)」という表札を見つけたが、これは奈良県に多い姓で、菅原道真にもつながる「土師」一族の由緒在るものとのこと。

現在の我々の生活感覚で歴史を朔るとすると、室町時代迄で十分。それ以前は外国のようなもので、縁が薄い。例えば、生け花、茶、能、狂言などは室町以降に見られるもので味噌、醤油など現在の生活手段となっているものも同様である。文献的にみると、三条西実隆(1455～1537)の「実隆公記」に当時の生活、物の考え方、信仰のあり方などが克明に記せられているとのことである。

話し手は、遡る意味のある年代として、応仁の乱勃発の年(1467年)を出発点としてとらえ、現在までを次の3区分にして、順次説明した。

①「うつけ者」と「サル」の天下統一 1467年～1600年

この1600年は、関ヶ原の戦いの年である。天下統一を果たした豊臣秀吉も既に亡くなり、徳川家康が実権を握った時期である。長期政権であれば別の評価もあったであろうが、短命であったため、秀吉に対する評価はそれ程高くない。

②「近代日本」あけぼの 1600年～1680年

この1680年は、4代家綱から5代綱吉に代替わりした年であるが、この区切りの年代には現代放映中の大河ドラマ「葵―徳川3代」の治世が入る。徳川幕藩体制が確立するのは3代家光の頃で、明治直前迄続く政治体制は、幕府(天領)の直轄支配と各藩(領主)支配の二重構造となっている。また、対外的には、鎖国政策がとられたが、キリスト教を排除するためという通説とは別に、長崎を通じてのオランダ、中国以外の外国貿易を幕府が独占するための政策であったと見る事が出来る。

③「元禄花見踊り」のあとは「憂国の志士」奔(ハシ)る 1680年～現在

元禄花見踊りは、5代綱吉の時代を指し、憂国の志士奔るは、寺田屋事件を指す。話し手は、この区切りの年代の中で、特に、8代吉宗が行った享保の改革について取り上げ、改革の推進力となったのは新進気鋭の人達であったが、この改革を進めるためには、財力のある商人とも提携せざるを得なかった。この時の政治体制は、現在の政府の官僚組織に近いものであったのではないかと。そして、この政治の実態は、明治以降も変わらなかったのではないかと言及した。

以上のほか話し手は、網野善彦氏の説を引用して、「水呑み百姓」というと貧しい農民ととられ勝ちであるが、「水呑み」とは、年貢の賦課される田畑を持たない人のことをいうのであり、「百姓」も農民だけを指すのではなく、非農民である回船問屋などの商人や大工などの職人までも含むものであって、決して貧しさを表現する言葉ではないとの説明があった。

(記録 須藤 英雄)

懐かしの映画音楽 II

話し手 立川 富美代

司 者 大高 秀夫

昨年に続いて2回目の懐かしの映画音楽、前回は音楽を聴くとすぐに映画シーンを思いだし、主演のスターが目につかぶという様な曲を選曲したが、今回は映画音楽のジャンルに分けて聴く。クラシック、シャンソン、ジャズ、ミュージカル、ダンス音楽等々、映画の中から名曲が生まれ育って来た。目から(ビデオテープ)耳からと楽しみたい。

- 1 クラシック……1937年アメリカ映画 『オーケストラの少女』 (ビデオテープ)
主 演 D. ダーピン、A. マンジュウ、R. ストコフスキー
主題歌 「ハンガリヤ狂詩曲第2番」、椿姫の中から「乾杯の歌」
- 2 クラシック……1940年アメリカ映画 『アメリカ交響楽』 (ビデオテープ)
ジョージ・ガーシュイン伝記物語
主題歌 「ラブソディ イン ブルー」
- 3 ポピュラー……1962年イタリア映画『世界残酷物語』 (CD)
ドキュメンタリ映画 映画よりテーマ音楽が世界的にヒット
たくさんの歌手が歌ったが今回はナット・キング・コールで聞く
- 4 ジャズ……1951年アメリカ映画 『ショウ ボート』 (ビデオテープ)
主 演 E. ガードナー、H. キール
主題歌 「オールマン リバー(黒人霊歌)」
- 5 ダンス音楽……1948年アメリカ映画 『イースター パレード』 (ビデオテープ)
主 演 F. アステア、J. ガーランド、A. ミラー
主題歌 「イースター パレード」ほかダンス音楽

お茶の時間を楽しみながら、皆さんと各自の映画や音楽のルーツを探って話し合う。
外国の映画音楽を楽しんでいるのに、意外とルーツは日本映画、戦争映画や終戦直後の映画でスタートをしている人が多かった。
若い方はやはり1950-1960年代のアメリカ映画がスタートのようである。

- 6 シャンソン……1954年アメリカ映画 『麗しのサブリナ』 (ビデオテープ)
主 演 O. ヘップバーン、W. ホールデン、H. ボガード
主題歌 「ラ ヴィ アン ローズ(薔薇色の人生)」
- 7 ジャズ……1944年 アメリカ映画 『グレン・ミラー物語』 (ビデオテープ)
主 演 J. シュツアート、J. アスリン
主題歌 「イン ザ ムード」「ムーンライト セレナード」「ジャムセッション」
- 8 ミュージカル…1965年 アメリカ映画『サウンド オブ ミュージック』(ビデオテープ)
主 演 J. アンドリュース
主題歌 「サウンド オブ ミュージック」「朝のいのり」「ハレルヤ」
「さよなら・ごきげんよう」「エーデルワイス」

最近はとても古いVTRもたくさん揃っており、聞くだけでなく、目でも楽しむことができる。 見て、聴いて、おしゃべりをして、幸せな時間を過ごせたことを感謝する。

(注記) 内容が専門的で多岐にわたるので、誤述のないよう、話し手にこの稿を依頼した。

(記録 立川 富美代)